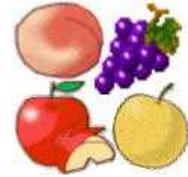


平成29年度 果樹情報 第14号

(平成29年10月 5日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (9月後半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると4半旬が19.9℃で0.8℃低く、5半旬が19.6℃で0.6℃高く、6半旬が18.5℃で0.4℃高く経過しました。

この期間の降水量は72.0mmで平年の91%でした。

2 生育状況 (10月2日時点：果樹研究所)

(1) りんご

ア 果実肥大状況

暦日比較では、「ふじ」は縦径99%、横径102%と平年並で、満開後日数による比較でも平年並です。

イ 「ふじ」の果実成熟状況

9月28日(満開後150日)の「ふじ」の果実成熟は、果肉硬度は15.3ポンドで平年よりやや低く、デンプン指数は2.9でデンプンの消失は平年並となっています。果皮に含まれるクロロフィル含量は平年並、アントシアニン含量は平年よりやや高く、着色は進んでいます。
※りんごのデンプン指数：指数1～5で評価し、数値が高いほどデンプンの消失が進んでいます。

(2) なし

ア 主要品種の収穫期と果実品質

主要品種の収穫盛期は、平年と比べ「幸水」で1日早く、「豊水」で3日早く、「二十世紀」では5日早まりました。収穫時の平均果重は「幸水」では平年並、「豊水」では平年より小さく、「二十世紀」では平年より大きくなりました。糖度は「幸水」、「豊水」、「二十世紀」ともに平年を大きく下回りました。

表1 ナシ主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸水	8/25	8/25	8/19	8/30	8/31	8/22	9/4	9/6	8/25	380	380	376	11.0	12.6	12.8
豊水	9/11	9/13	9/1	9/16	9/19	9/9	9/25	9/25	9/20	404	429	413	11.6	12.8	12.9
二十世紀	9/14	9/18	9/7	9/17	9/22	9/10	9/21	9/27	9/12	428	401	421	10.3	11.2	10.9
ラ・フランス	未	10/6	9/28	未	10/7	9/28	未	10/9	9/28	未	294	310	未	12.9	12.0

注) 平年値は、1986～2016年の平均値

イ 「ラ・フランス」の成熟経過

果肉硬度およびデンプン指数は平年よりもやや低く推移しています。

(3) ぶどう

ア 「シャインマスカット」の収穫期と果実品質

収穫始期は9月25日で、平年より14日遅れました。9月25日収穫果の果実品質は、果房重が523g、1粒重が10.6g、糖度が17.3° Brix、酒石酸含量が0.38%、糖酸比が46.4でした。

表2 「シャインマスカット」の生育経過と果実品質

	収穫始期(月/日)			収穫盛期(月/日)			収穫終期(月/日)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
	9/25	9/11	9/16	未	9/21	10/10	未	10/4	10/24
シャイン マスカット	果房重(g)			1粒重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
	(523)	499	723	(10.6)	10.9	15.4	(17.3)	18.3	17.8
	酒石酸(%)			糖酸比					
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年			
	(0.38)	0.30	0.23	(46.4)	63.6	77.4			

※ 平年値は2009～2016年の平均値。

果実品質本年値は(9/25収穫果の値)であり、本年度の確定値ではない。

3 栽培上の留意点

(1) りんご

ア 「ふじ」の収穫前管理

果肉硬度は平年よりもやや低く、着色はやや進んでいます。着色管理は遅れないように実施しましょう。1回目の葉摘みは、果実に直接接触するような葉を中心に玉回しと併せてやや軽めに行い、10月中旬以降は、個々の果実がしっかり着色するよう丁寧に実施しましょう。

イ 中生種の収穫

地色、着色、デンプンの抜け、果実の肉質、食味等から総合的に判断し、品種特性に応じて収穫適期の品種から収穫しましょう。なお、わい性台樹の生育は、マルバ台樹よりも5～7日程度進む傾向があるため、収穫が遅れないよう注意しましょう。

(2) ぶどう

ア 基肥

基肥の施用は、落葉前の10～11月に行います。「巨峰」成木における肥沃度中位のほ場での年間施肥量の目安は、窒素が6 kg/10a、リン酸が8 kg/10a、加里が8 kg/10aです。

なお、樹勢が強い場合は主に春肥の窒素の施用量を減量しましょう。また、礼肥、基肥、春肥の3回に分けて施肥する場合は、それぞれ2 kg/10aを目安とします。堆肥や有機質肥料および土壌改良材として施用する分は差し引いて施用します。油粕などの有機質肥料は分解に時間がかかるので、10月中旬までに施用しましょう。

イ 間伐・縮伐

樹冠が拡大し枝が混み合ってきた場合、早めの間伐や縮伐を実施しましょう。間伐や縮伐は収穫終了直後に行うと良いでしょう。この時期はまだ葉があるため、枝の混み具合がわかり、残った枝に良く光が当たるようになり、養分蓄積にも有効です。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア ももせん孔細菌病

今後の降雨により新梢への感染が懸念される状況にあるため、秋期防除を確実に実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。薬剤は4-12式ボルドー液またはI Cボルドー412 30倍、クレフノン 100倍加用コサイド3000 2,000倍またはクレフノン 100倍加用ムッシュボルドーDF 500倍のいずれかを選択し、2週間間隔で3回、十分量を散布しましょう。

イ なし黒星病

冷涼多雨な気象条件では翌年の伝染源となる芽への感染が増加するため、2回目の秋期防除を実施していない園では速やかに防除を行いましょ。薬剤は、オーソサイド水和剤 80 600倍またはベルコート水和剤 1,000倍を選択し、枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょ。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>